

[シラス]

1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後、平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、平成 29 年は 2,068 トンとなりました。

志布志湾海域では、平成 19 年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000 トン前後で増減を繰り返しながら推移し、平成 29 年は 1,007 トンとなりました。

2. 平成 30 年 1～2 月期の漁況の経過

西薩海域では、カタクチシラス主体に 95 トンの水揚げで、前年の 53 %、平年の 174 %でした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に 30 トンの水揚げで、前年の 13 %、平年の 18 %でした。

3. 平成 30 年 4～6 月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域は前年・平年を下回り、志布志湾海域は前年を上回り、平年並でしょう。

(根拠)

西薩海域では本年 3 月の卵稚仔調査でのカタクチイワシ卵の出現状況、カタクチイワシ親魚の来遊状況から、前年・平年を下回ると考えられます。

志布志湾海域では、直近の漁模様から、低調だった前年を上回り、平年並と考えられます。

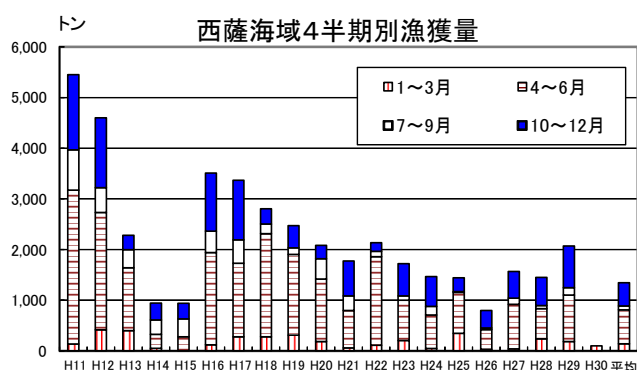
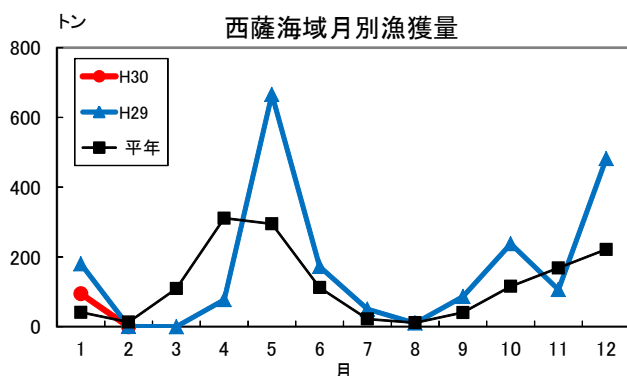


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4 漁協計)

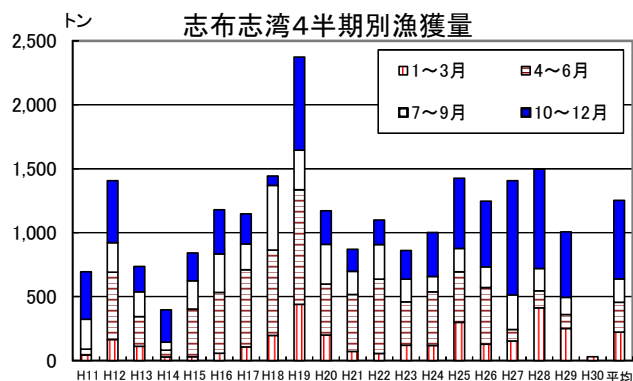
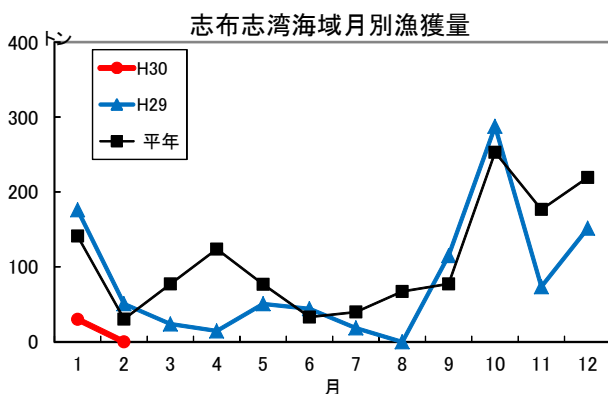


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2 漁協計)

※平年値は過去 5 年の平均値(AV), 平成 30 年 2 月 28 日までの水揚げ量を使用